

せんだい支えあいのまち推進プラン中間評価について(速報)

1.中間評価の実施目的

年度ごとのプラン評価は事業所管課による自己評価が中心となることから、今年度において地域団体や支援機関等へ意見聴取を行い、支援の現場での実感を把握することで、各所管において自己評価とのずれを補正し、次年度以降の取り組みに生かしていくもの。

2.中間評価の実施方法

各事業の連携先や事業との関りがある団体等に中間評価の趣旨等について直接説明を実施し、アンケート形式での回答を依頼。回答については、その場でのヒアリングや、後日電子データ送付により回収。対象事業年度は令和4年度とし、プランに記載された重点的な取り組みを中心に、29事業について24団体に中間評価を実施。

3.回答状況

24団体中17団体から回答あり(令和6年10月28日現在)

	△ (行政より高い)	≡ (相違なし)	▼ (行政より低い)	? (どちらともいえない)	回答不可
事業	2	27	2	3	2
課題	2	25	0	7	2
連携	0	30	1	3	2
合計	4(3.9%)	82(80.4%)	3(2.9%)	13(12.8%)	0

【参考】行政による自己評価まとめ

	S (上回った)	A (概ね達成)	B (一定程度達成)	C (下回った)	D (大きく下回った)
事業	3	42	6	0	0
課題	4	34	13	0	0
連携	7	39	5	0	0
合計	14(9.1%)	115(75.2%)	24(15.7%)	0	0

4.現時点での所感

各団体からの回答について、≡(行政の自己評価と相違なし)が全体の80.4%を占めていることから、行政の自己評価と概ね相違がない状況にある。また、行政による自己評価のA評価(概ね達成)が占める割合は75.2%であることから、計画の達成度に関して一定の評価ができるものと考えられる。

5.今後のスケジュール

令和7年1月下旬～2月上旬(第3回分科会)	・ 中間評価について(案) ※今回の分科会で出た意見をもとに作成した「中間評価案」をご審議頂きます。
令和7年3月	・ 第3回地域福祉専門分科会のご意見を集約し、最終的な中間評価として公表予定